

# いわた 文化財だより 第217号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和5年4月3日発行

## 目次

- 旧津倉家住宅主屋・応接棟・土蔵が  
国登録有形文化財へ . . . P1～2
- 徳川家康関連の展示をおこないます . . . P3
- 第2・第4土日も開館！  
埋蔵文化財センターに行こう . . . P4
- コラム『文化財で食べる』谷口安曇 . . . P4

## つくられ じゅうたく おもや おうせつとう どぞう 旧津倉家住宅主屋・応接棟・土蔵が 国登録有形文化財へ

このたび、国の文化審議会から答申が出され、掛塚地区にある「旧津倉家住宅主屋」「旧津倉家住宅応接棟」「旧津倉家住宅土蔵」が国の登録有形文化財（建造物）（※）に登録されることとなりました。

今回の登録で、市内における国の登録有形文化財は、合計で20件（10箇所）となります。磐田の歴史的建造物として、また、地域の資産として大切に次世代へ残していきます。

※建てられて50年を経過した建造物のうち、歴史的景観やその時代の特色、再現が難しい技術などを残している文化財を、国の文化審議会の審議・答申を経て、有形文化財に登録されたもの。



### 津倉家とは？

天竜川の河口に築かれた掛塚湊は、江戸時代から天竜川上流の木材等を江戸や大坂をはじめ、各地へ送り出す水運業の拠点として栄えました。津倉家は、江戸屋と号して江戸時代から材木商・両替商を営み、その後廻船問屋として天竜川上流の木材などの運搬に従事していました。明治時代には、掛塚の中でも有数の規模を誇る豪商でした。

旧津倉家住宅は、平成26年に市に寄贈され、現在は民間団体に管理などを委託しています。内部は普段非公開ですが、管理団体が掛塚まつりや町歩きイベントの際に見学会を開催しているほか、草刈りなど、地域の人々と共に保存・活用しています。

掛塚地区周辺地図

## 旧津倉家住宅主屋



旧津倉家住宅主屋の玄関土間

明治22年(1889)の建築と伝わっています。木造2階建ての瓦葺きで、正面(南側)は、1・2階共に格子窓が見られます。(外観は1ページ目参照)

1階正面は深い庇ひさしが設けられている点や、玄関を入ると広い土間がある点など、津倉家が店を営んでいた頃の面影が感じられます。座敷を仕切る襖ふすまには正面側に福田半香はんこう、背面側に平井頭齋ひらいげんさいの山水画が描かれ、いずれも市指定文化財となっています。(現在は複製品を飾っています)

## 旧津倉家住宅応接棟

昭和10年(1935)に増設したと伝わる応接棟は、当時東京などで流行していた「洋館付住宅」(和風住宅の一部のみを洋風にし、応接間としたもの)を意識して建てられたものと考えられます。



旧津倉家住宅応接棟内部



旧津倉家住宅土蔵

## 旧津倉家住宅土蔵

明治中期以前の建築です。木造2階建てで、内側は漆喰しっくいが塗られており、外壁には伊豆石張りが施されています。

湊町として栄えた掛塚で、積み荷を降ろした船が、バランスをとるために積まれてきた伊豆石は、地域に根付いた建築資材です。地元の歴史を物語る貴重な建造物です。

**5月27・28日に見学会を開催！詳しくは広報いわた5月号でお知らせします**

まだまだあります！

## 掛塚にある国登録有形文化財

### 旧掛塚郵便局(長谷川家住宅)局舎・蔵



旧掛塚郵便局  
(長谷川家住宅)局舎

旧掛塚郵便局は昭和10年(1935)に建てられた木造2階建て一部平屋建ての局舎で、住宅を兼ねていました。正面と側面をモルタル塗で石造風に仕上げています。正面上部には漆喰を用いて造られた郵便局のマークが飾られています。現在は、内部が改装され店舗として利用されています。

蔵は、明治中期以前に建築されたと考えられ、木造2階建てで、外壁に伊豆石が使われています。



旧掛塚郵便局(長谷川家住宅)蔵



霧谷家住宅主屋

### つるや 霧谷家住宅主屋

明治17年(1884)頃に建てられた木造2階建ての住宅で、通りに面して立つ町屋形式の店舗兼住宅です。元は造り酒屋で現在「つるや酒店」として営業しています。1階に格子の付いた出窓が残る、明治前期の掛塚の商家の様子が見える建物です。

# 文化財だより 第250号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和8年1月5日発行

- いざ、磐田の城へ！  
～天下人秀吉が生き抜いた戦国時代～・・・P1～2
- イワタ深掘り 文化財だより Ver. ②・・・P3
- 文化財課 Instagramはじめました！・・・P4
- コラム『よみがえれ！掛塚のにぎわい』谷口安曇P4



2026年NHK大河ドラマの主要キャスト豊臣秀吉。

この、秀吉が生き抜いた戦国時代には、争いから大切な生命と財産を守るため各地に「城」が築られました。磐田の地も例外ではなく、市内各地に城が築かれ、その痕跡を今に伝えています。

今回は、来月開催予定の歴史シンポジウムと併せ、市内の代表的な城を紹介します。

## きのさきじょう ①城之崎城

遠江国を支配下に入れた徳川家康が永禄12年(1569)の秋から居城として見付の南東に築き始めた城です。翌年の元亀元年(1570)に造営中止となりましたが、その原因として、当時、甲斐の武田信玄との対立が深まるなかで、天竜川を背にすることが戦略的に不利と考えたためか完成に至らなかったとも言われています。

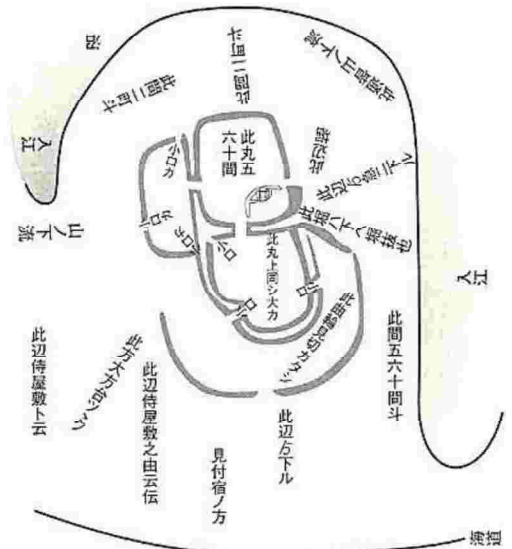
現在、土塁の一部などが城山球場の中に残り、城の大きさを実感することができます。



城山球場 (空撮)



曲輪から見た土塁の様子



「遠州見付古城図」(蓬左文庫蔵をトレース)

(城山球場改修時 昭和55年頃) 平山優『新説 家康と三方原合戦』2022より引用  
1/4 いわた文化財だより 第250号

旬な情報  
お届けします

## 文化財課 Instagram はじめました!

文化財課のInstagramをはじめました。企画展などの展示・イベント情報や、文化財を紹介しています。文化財だよりでは掲載しきれない、タイムリーな話題も投稿しています。

ぜひ、右二次元コードからフォローをお願いいたします。

### ■これまでの投稿内容■

埋蔵文化財センター期間限定公開トピック展示、  
イベント参加者募集告知など



文化財課イメージキャラクターともちゃん



### 職員リレー コラム

## よみがえれ! 掛塚のにぎわい

谷口 安曇

令和7年11月17日に、掛塚の旧関家住宅(つたや)主屋・土蔵が国登録有形文化財になりました。掛塚地区では4件目、市内では12件目の登録です。

江戸時代には木材の集積地や木材積出港として栄えた掛塚は、旧廻船問屋の主屋や蔵が多く残り当時のにぎわいを感じることができます。一方で、全国各地で対策を求められている「空き家」が掛塚でも増えています。

昨年10月に空き家対策の一環として、地域おこし協力隊が国登録有形文化財旧津倉家住宅内に、「かけラボ」(かけつかからはじめる 空き家の魅力発信ラボ)をオープンしました。空き家対策担当の協力隊員3名が、空き家の所有者や空き家を活用したい方の相談にのります。毎週月曜日から水曜日の9時から17時で相談を受け付けています。相談物件に出向いて実際に物件を見ながらの相談もおこなっています。

登録有形文化財は、文化財の保存だけでなく活用に重点をおいた制度で、建物内部の改装は自由にすることができますので、活用の幅が広がります。

今後、掛塚の国登録有形文化財や空き家が市民のみなさんによって活用され、にぎわいが生まれる日が楽しみです。

今回ご紹介した「かけラボ」について詳しくは右二次元コードからご覧ください。



相談風景



**編** 文化財だより第250号! 特別なことはしま  
**集** せんが、きりの良い数字になんとか嬉しい  
**後** 気持ちになりました。今後とも、文化財だ  
**記** よりをよろしく願いいたします。

発行: 磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所: 〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話: 0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 磐田 文化財だより 検索

